福祉局障害福祉課（発達障害者支援センター）

サポートブックの活用について

1．サポートブックの概要

○保護者が、子どもの成長の様子を記録し、家族以外の人(＝支援者)に関わってもらうときに、「子どもの様々な情報」を知ってもらうためのツール。

○支援者からの視点での情報を加えることで、支援者と保護者とのコミュニケーションツールとしても役立ち、保護者自身も、これまで気づかなった子どもの一面に気づき、自らの子どもとのかかわりを見直すきっかけとなる効果がある。

○平成 19 年度に作成した神戸市版を、令和 3 年度に使いやすく改訂。記入様式にチェックボックスを増やすなど他都市での好事例を参考に、関係者の意見も取り入れてリニューアル。PC で直接入力できる Excel 版を神戸市 HP 上に掲載。

https://www.city.kobe.lg.jp/a86919/kosodate/sodan/hattatsushogai/siryo.html

2．サポートブックの内容

○対象年齢：幼児から小学生低学年（概ね 3 歳～ 9 歳）

○必要なときや場所、目的に応じて、支援者と共有する内容を調節できるページ構成。

「本人の情報（緊急連絡先や医療的なケア等の情報)」

「好きなことや苦手なもの」「身体状況（疾患やアレルギーの有無等)」

「コミュニケーション（あいさつ、理解・聞くこと、表現・話すこと)」

「人との関わり（家族関係、大人と、子ども同士、家族以外の人、初めての人)」

「活動（集中する、同時の作業、体を使う運動、手先の細かな作業)」

「集団での様子」、「感覚・行動」、「パニックや危険なこと」、「日常生活」など。

3．令和 4 年度の取り組み

○サポートブックの存在を周知するため、公立・民間の児童発達支援センター（8 か所）において「保護者向け研修」を実施。

○保護者への助言等を行える支援者を養成するため、公立・民間の児童発達支援センター職員を対象に「支援者向け研修」を実施。

○発達障害者支援センター事業の「家庭療育講座（ペアレントトレーニング)」でのサポートブック作成支援など。

4．支援のポイント

○発達障害児への支援方法（ペアレントトレーニング・応用行動分析・認知行動療法・SST など）

○支援する上で大切なこと（ほめる、短く伝える、あいまいな表現はしない、図・絵にする、得意をのばす、見通しを伝える、スモールステップ、時計やカレンダーを活用など）

○サポートブックを活用し、保護者、小学校等と連携

○詳しくは、発達障害者支援センターＨＰを参照

https://www.city.kobe.lg.jp/a86919/kosodate/sodan/hattatsushogai/index.html